# 加藤薗子先生をお送りするにあたって

**産業社会学部長　佐藤　春吉**

加藤薗子先生は，1979年に立命館大学産業社会学部に赴任されて以来，「社会福祉論」という文字通り本学部の社会福祉教育の基幹科目を担当され，本学部の福祉に関する研究と教育を中心的に支えてこられました。この間，日本の社会は急速に高齢化社会へと変化してきました。また，労働環境の変化，都市化の進展や情報環境の変化のなかで，家庭や子供の生育環境も変わり，少子化のなかで児童や少年期にも新しい困難が生まれ，悲惨な事件が相次ぐなど，ますます社会福祉の課題は重要性を増し，福祉は日本の社会の姿を決めるほど重要な意味をもってきています。他方では，経済のグローバル化がすすみ，バブル崩壊のなかで，市場競争が激化し，市場原理を中心とする社会政策の転換が行政レベルで強力に進められるようになり，福祉はいよいよその基本的な思想や政策原理のレベルで争点化される時代となってきました。加藤先生は，こうした問題状況に対して常に一貫して，福祉を国民の生活権を保障するという観点からとらえ，その基本理念に立ち返るべきことを主張してこられました。先生の主張されるように，福祉国家の行方についてその根本思想に立ち返る議論がいっそう重要になってきているように思います。同時に，現実的政策課題でも，また直接の福祉現場でも具体的実践的な創意が求められる時代でもあります。私たちは，こうした課題をそれぞれの立場から引き受けて，今後の学部の研究教育に邁進しなければならないと決意を新たにしているところです。

加藤先生が赴任されてからも，本学部は大きな飛躍的発展を遂げてまいりました。福祉に関係するところでは，2001年度の人間福祉学科の創設がそのなかでももっとも大きな改革でした。人間福祉学科は，いまや全国の福祉系学部・学科のなかでも非常に高いレベルの学生を集める学科となり，本年度で４年の完成年度を迎え，ますますの発展をはかろうとしています。先生には，この間こうした学部の教育改革でも大きなお力を発揮していただきました。先生は，いまなお大変お元気で若々しい活力をもっておられます。これまでの先生のご業績と本学部への貢献に感謝しますとともに，今後も新天地でその持てるお力を存分に発揮していただき，後進の指導にあたっていただきたいと思います。先生，これまで25年の長きに渡って本学部のためにご尽力いただき本当にありがとうございました。